SANEI

K11-LH 0IB

ツーバルブシリーズ

ツーバルブ混合栓
ツーバルブ混合栓（レバー付）

施工・取扱説明書

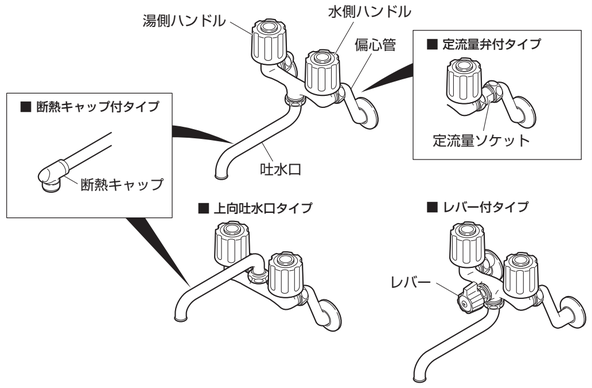
施工、ご使用の前にこの説明書をよくお読みのうえ、正しく施工、ご使用ください。

お客様へ
お読みになった後は、お使いになる方がいつでも読める所に必ず保管してください。

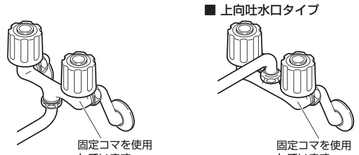
工事店様へ
施工後、この説明書をお客様へお渡しください。

本製品について 各部の名称

一般用



寒冷地用



参照：寒冷地用の水抜方法

施工について 施工に関する安全上のご注意

●ここに示した注意事項は、状況によって重大な結果（傷害・物損）に結び付く可能性があります。
いずれも、安全に関する重要な内容を記載していますので、必ず守ってください。
●施工完了後、試験運転を行い異常がない事を確認すると共に、工事店様は説明書に沿ってお客様に使用方法、お手入れの仕方を説明してください。

用語および記号の説明

注意	「取扱いを誤った場合に、使用者が軽傷を負うかまたは物的損害が発生する危険な状態が生じる事が想定されます。」
⚠	「注意しなさい！」（上記の「注意」と併用して注意をうながす記号です。必ずお読みになり、記載事項を守ってください。）
⃠	「してはいけません！」（一般的な禁止記号です。）
⃠	「分解してはいけません！」
❗	「指示通りにしなさい！」（一般的な行動指示記号です。）

⚠ 注意

- **修理技術者以外の人は、水栓本体内部を分解しないでください。**
  故障や水漏れの原因になります。
- **製品に強い力や衝撃を与えないでください。**
  故障や水漏れの原因になります。
- **湯水を逆に配管しないでください。**
  水を出そうとしても、湯が出てやけどをする事があります。
  なお、逆配管の場合は逆配管アダプター（別売）を使用する事で、逆配管でも表示通りに湯水を使用する事ができます。参照：施工手順
- **給湯温度は85℃より高温で使用しないでください。**
  85℃より高温でご使用になると、器具の寿命が短くなり、水栓が破損し、水漏れのため家財などを濡らす財産損害発生のおそれがあります。
- **他所の水栓の使用などにより水圧変動が起こり、湯の使用中に湯温が急上昇することがあります。**
  やけどのおそれがありますので、やけどのおそれがないところまで水圧変動を押さえた配管設備にしてください。
- （寒冷地用の場合）
  凍結が予想される場所でご使用になる場合は「寒冷地用の水抜方法」を参照の上、凍結予防を確実に実施してください。
  部品が破損し、水漏れして家財などを濡らす財産損害発生のおそれがあります。
  参照：寒冷地用の水抜方法

施工について 適切な使用条件

〔水圧について〕

	最低必要水圧	最高水圧
給水・給湯圧力	0.05MPa（流動圧）	0.75MPa（静水圧）

●給水・給湯圧力が0.75MPaを超える場合は、市販の減圧弁などで0.2～0.3MPa程度に減圧してください。
●給水圧力は給湯圧力より必ず高くするか、同圧になるようにしてください。
●給湯圧力は必ず0.05MPa以上にしてください。

〔給湯機について〕

使用最高温度	85℃以下

●給湯機からの給湯管は抵抗を少なくするために最短距離で配管し、配管には必ず保温材を巻いてください。
●誤操作などによるやけど防止のため、42～60℃給湯をおすすめします。
●給湯に蒸気を使用しないでください。

〔水質・用途について〕

使用可能水質	水道水及び飲用可能な井戸水
用途	一般住宅用

施工について 施工手順

A 古い水栓の取りはずし

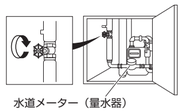
1 元栓を閉めて、水を止めます。
元栓ボックス（メーターボックス）のふたを開け、元栓を右にまわして閉めます。
※元栓を閉める前に給湯機や洗濯機などの使用は止めてください。
※閉栓後は近くの水栓などで給水が止まっていることを確認してください。
※一部の地域では左まわしの場合があります。
※元栓がどこにあるかわからない場合は、水道局にお問い合わせください。

■ **戸建て住宅などの元栓ボックス：**
主に玄関やガレージ付近の地面にあります。古い戸建て住宅の場合は道路に円形のキー式ボックスがあったりします。

●キー式

●ハンドル式

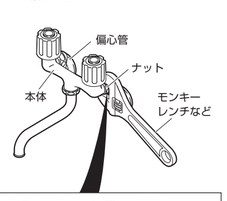
■ **マンションなどの 中高層住宅の元栓ボックス：**
主に玄関を出た階段の踊り場に鉄の扉があり、電気やガスのメーターと共に水道メーターと元栓があります。お隣と共通のボックス内で元栓の場所がわからない場合は、水道料金の検針票などでご自分の水道メーター番号を確認してください。



2 古い水栓本体をはずします。
偏心管のナットを交互に少しづつゆるめて取りはずします。
偏心管側にナットが付いている場合は右、本体側にナットが付いている場合は左にまわします。

アドバイス
●この時、片方のナットだけまわすとうまくはずれません。交互に少しづつゆるめて取りはずしてください。
●残り水を受けるためぞうきんを用意してください。

⚠ 注意
●ねじで手を切る場合があります。ご注意ください。
●湯側の偏心管の残り湯にご注意ください。



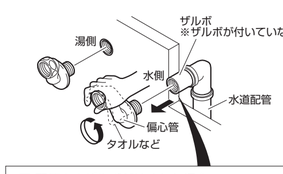
■ 偏心管側にナットが付いている場合

■ 本体側にナットが付いている場合

3 古い偏心管をはずします。
偏心管をタオルなどであてがい、湯側、水側ともに手で左にまわしてはずします。
手でまわしてもはずれない場合はモンキーレンチなどと工具を用います。
モンキーレンチなどが滑らないようにしっかりと偏心管にはさんでまわしてください。

アドバイス
残り水を受けるためぞうきんを用意してください。

⚠ 注意
●偏心管の付け根がぐらついていたり、まわそうとすると反発を感じる場合は配管がきちんと固定されていない可能性があります。
注意しながらまわしてください。
配管が割れそうな場合は無理にまわそうとせずに、偏心管をはずさず取付ける事ができる取替用混合栓をお買い求めください。
●ねじで手を切る場合があります。ご注意ください。
●湯側の配管の残り湯にご注意ください。

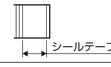


■ 手でまわしてもはずれない場合

■ **配管中のザルボがはずれた場合**
配管中にはザルボ（商品には含まれていません。）が付いている場合があります。
もし、ザルボがはずれた場合は次の要領で取付けてください。
（1）ザルボをプライヤーなどではさみ、偏心管からはずします。
（2）ザルボのねじ部を掃除します。

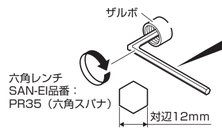
（3）手でしっかりとザルボを握り、シールテープをねじに向かって右向きに、5回程度少し引っ張りながら、ねじにくい込むように巻き、そのまま引きちぎります。

アドバイス
シールテープをねじ全体に巻く必要はありません。
シールテープ幅に合わせて巻付けてください。



⚠ 注意
シールテープを逆に巻くと壁の穴に取付けた場合、シールテープがゆるみ、漏水の原因となりますので、図の通りに巻いてください。

（4）ザルボを配管の中に入れ、六角レンチで締付けます。



■ **六角レンチがない場合**
ザルボを配管の中に入れ、六角レンチの代わりに古い偏心管で締付けます。
締付け後、古い偏心管をとりはずします。

⚠ 注意
ザルボの取付けは慎重に進めてください。
壁の中にあるため、もしもの漏水の確認が困難です。

B 新しい水栓の取付け

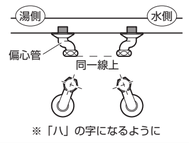
4 配管内（ザルボ）の掃除をします。
配管内（ザルボ）のシールテープくずやゴミをきれいに取除きます。

⚠ 注意
配管内にゴミなどが混入すると漏水や水栓の故障の原因となります。
特に新設の場合は、ゴミなどが混入しているため、通水して配管内のゴミを洗い流してください。
（元栓の開閉は手順1を参照してください。）

5 偏心管の取付回転を確認します。
偏心管を湯側・水側に分けて配管に取付け、何回転で止まるか回数を確認します。

アドバイス
取付回転数は後で偏心管を仮固定する際の目安にします。

MEMO
湯側 回転 ／ 水側 回転

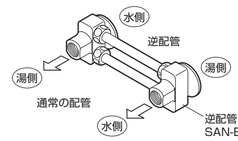


※「ハ」の字になるように

逆配管の場合

通常の配管は向かって左側が湯、右側が水ですが、逆配管は向かって左側が水、右側が湯になっています。
このような場合は水を出そうとしても湯が出て、やけどをする事があります。
下記の方法を行って、逆配管でも使用できるようにしてください。

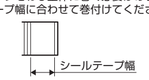
■ **逆配管アダプター（別売）による対応**
逆配管アダプターを使用する事によって、逆配管を通常の配管にします。



※取付方法については逆配管アダプターの説明書をお読みください。

6 偏心管にシールテープを巻きます。
ねじに向かって右向きに、5回程度少し引っ張りながら、ねじにくい込むように巻き、そのまま引きちぎります。

アドバイス
シールテープをねじ全体に巻く必要はありません。
シールテープ幅に合わせて巻付けてください。

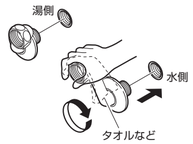


⚠ 注意
シールテープを逆に巻くと壁の穴に取付けた場合、シールテープがゆるみ、漏水の原因となりますので、図の通りに巻いてください。

7 偏心管を仮固定します。
偏心管をタオルなどであてがい、湯側・水側ともに右にまわして入れます。
手順5で確認した偏心管の少ない方の回転数より1回転少ない位置まで、湯側・水側ともにまわして止めておきます。

アドバイス
上記のように偏心管を少し手前で止めておくことで、ねじ込みすぎを防止します。

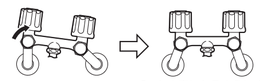
⚠ 注意
漏水の原因になります。
偏心管は絶対に逆方向へゆるめないでください。
もしもゆるめてしまった場合は、もう一度はじめからの手順6を行ってください。



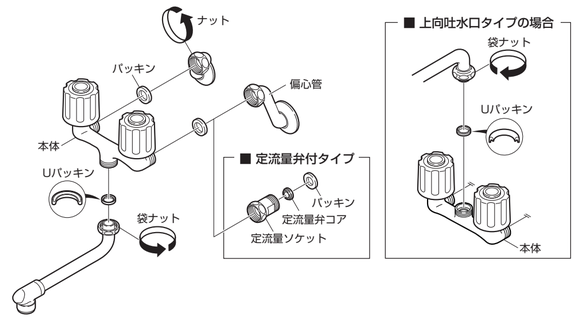
手順5の少ない方の回転数より1回転少ない位置で止めておく。

8 水栓本体を取付けます。
（1）水栓本体と偏心管の間に、パッキンが入っている事を確認し、水栓本体がまっすぐになるように偏心管を調節しながら手でナットを締付けていきます。

⚠ 注意
●漏水の原因になります。
偏心管は絶対に逆方向へゆるめないでください。
もしもゆるめてしまった場合は、もう一度はじめからの手順6を行ってください。
●水栓本体は重いので落下などに注意して取付けてください。

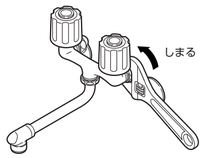


（注）寒冷地用の場合は偏心管が本体よりも上になると、水抜きできませんので必ず下になるように取付けてください。

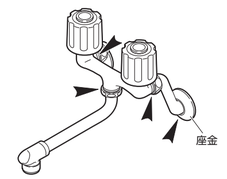


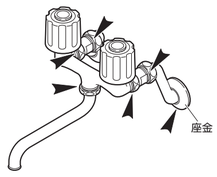
（2）モンキーレンチなどでナットをしっかりと締付け、水栓を偏心管に固定します。

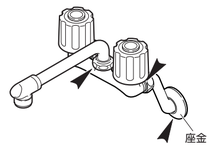
⚠ 注意
緩みがないように確実に締めてください。
ナットが確実に締付けられていないと、本体が傾いたり水が漏れることがあります。



9 元栓を開いて水漏れをチェックします。
接続後、各部に水漏れがないか必ず確認してください。
水漏れがある場合は、もう一度はじめからやり直してください。
最後に座金を壁面に締付けて完了です。







裏面へつづく

ご使用について　ご使用に関する安全上のご注意

●ここに示した注意事項は、状況によって重大な結果（傷害・物損）に結び付く可能性があります。
いずれも、安全に関する重要な内容を記載していますので、必ず守ってください。

用語および記号の説明

注意 ……「取扱いを誤った場合に、使用者が軽傷を負うかまたは物的損害が発生する危険な状態が生じる事が想定されます。」

⚠ ……「注意しなさい！」（上記の「注意」と併用して注意をうながす記号です。必ずお読みになり、記載事項を守ってください。）

⃠ ……「してはいけません！」（一般的な禁止記号です。）

……「分解してはいけません！」

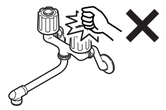
……「指示した場所に触れてはいけません！」

❗ ……「指示通りにしなさい！」（一般的な行動指示記号です。）

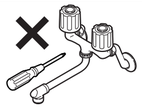
⚠ 注意

小さいお子様だけのご使用は、避けてください。
やけど・けがをするおそれがあります。

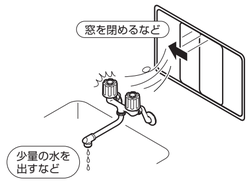
製品に強い力や衝撃を与えないでください。
故障や漏水の原因になります。



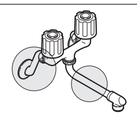
分解は、保守・点検の決められた項目以外はしないでください。
器具が破損し、やけど・けがをしたり、水漏れで家財などを濡らす財産損害発生のおそれがあります。



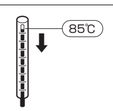
凍結が予想される場所でご使用になる場合は、凍結予防を確実に実施してください。
凍結破損で水漏れし、家財などを濡らす財産損害発生のおそれがあります。
参照：凍結予防



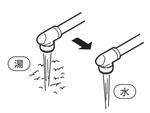
●水栓の左側には直接肌を触れないでください。
給湯側のため高温になっており、やけどをするおそれがあります。
●高温の湯をお使いのときは、吐水口に直接肌を触れないでください。
吐水口は高温になっているのでやけどをするおそれがあります。



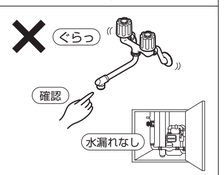
給湯温度は最高85℃までお使いください。
85℃以上でご使用になると器具の寿命が短くなります。
なお、誤操作などによるやけど防止のため、42～60℃給湯をおすすめします。



湯をお使いの後は、しばらく水を流してから止水してください。
次に使用する際、水栓内に残っている高温の湯が出て、やけどをするおそれがあります。

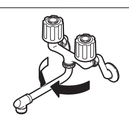


定期的に、配管周りの水漏れや、ガタツキがないか確認してください。
劣化・摩耗などで部品が破損し、やけど・けがをしたり、水漏れして家財などを濡らす財産損害発生のおそれがあります。

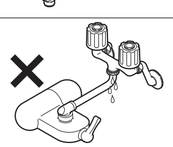


ハンドルは、ゆっくり回してください。
ハンドルを急に閉めると、配管に衝撃が加わり、水漏れで家財などを濡らす財産損害発生のおそれがあります。

日頃から、ときどき吐水口を回してください。
吐水口を長期間回さずに使用すると水あかなどが付着し、無理に回そうとすると、水漏れの原因になります。



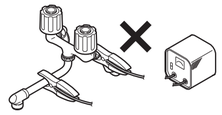
（吐水口先端に浄水器を取付ける場合）
止水機構を持った浄水器などは、取付けできません。
吐水口部から漏水するおそれがあります。



⚠ 注意

吐水口先端に重いものを下げたり、力をかけて回したりしないでください。
摩耗、変形などでパッキンの寿命が短くなり、吐水時に吐水口部から微少の水がにじみ出るおそれがあります。

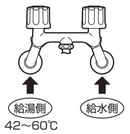
解氷機やアースを水栓に通電しないでください。
水栓が発熱で破損し、家財などを濡らす財産損害発生のおそれがあります。



（寒冷地用の場合）
凍結が予想される際は、配管と水栓の水抜き操作を同時に行ってください。
凍結破損で漏水し、家財などを濡らす財産損害発生のおそれがあります。
参照：寒冷地用の水抜方法

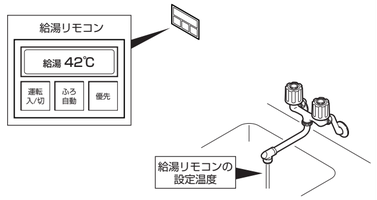
ご使用について〔ご使用前に〕　給湯温度の設定

■ 給湯機（給湯リモコンなど）の給湯温度は、誤操作などによるやけど防止のため、42～60℃設定をおすすめします。



こんなときは〔給湯温度を42℃に設定した場合〕

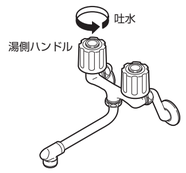
Q 高温の湯が出ない。



A 給湯機（給湯リモコンなど）の給湯温度を60℃設定した後、水栓側の湯側ハンドルをまわす事により、高温の湯が吐水されます。

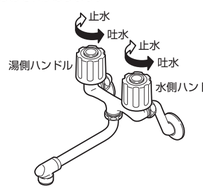
⚠ 注意
高温の湯を使用した後は、給湯リモコンとハンドルを適温に戻してしばらく水を流してください。

（注）水温の高い夏場で吐水量を少なくして使うと瞬間式給湯機の場合、着火しないことがあります。
この場合には、水栓側のハンドルを全開に（吐水量を多く）するか、給湯機の温度設定を下げてください。



ご使用について　吐水・止水・温度調節

湯を使用する時は水側ハンドルを開いてから徐々に湯側ハンドルを開き、温度および吐水量を調節してください。
湯側ハンドルを先に開くと高温の湯が出て、やけどをするおそれがあります。



レバー付の場合

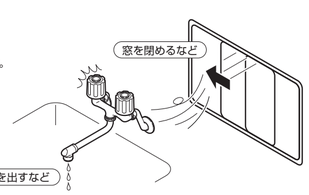
一度調節した温度の湯を一時的に止水できます。

（注）使用後は、必ずレバーを吐水側にして湯側・水側ハンドルで止めてください。

ご使用について　凍結予防

一般用でも凍結のおそれがある場合は、次の処置によって凍結を予防できる場合があります。

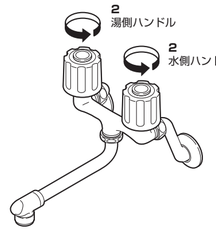
●水栓より少量の水を出してください。
●配管部などに保温材を巻いてください。
●屋内の窓を閉めるなどして水栓周囲の温度が氷点下にならないようにしてください。
※凍結による破損は保証期間内でも有料修理となります。



ご使用について　寒冷地用の水抜方法

寒冷地用は寒冷地において配管中の水を抜く設備（水抜栓）とあわせて使用する製品です。
凍結のおそれがある場合は、下記の方法で水抜きをしてください。

1 配管の水抜栓を操作します。
2 湯側・水側ハンドルをいっぱいに開きます。



お手入れ　日頃のお手入れ

製品についた汚れを放置しておくと、汚れが落ちにくくなることがあります。
快適にお使いいただくために、日頃のお手入れをおすすめします。

●柔らかい布で水拭きして、よくしぼった布で汚れを拭き取ってください。
●汚れが目立つときは、中性洗剤を柔らかい布にふくませて拭き取った後水拭きして、よくしぼった布で汚れを拭き取ってください。

⚠ 注意

次のものは使用しないでください。変色や傷みのおそれがあります。
●酸性・アルカリ性および塩素系の洗剤
※特に酸性洗剤はメッキを侵します。
●ベンジン・シンナー・ラッカー・アルコールなどの溶剤や油類
●クレンザーなどの粒子の粗い洗剤
●ナイロンたわしなど

お手入れ　定期的な点検

万が一の漏水に備えて次の点検を行ってください。

⚠ 注意

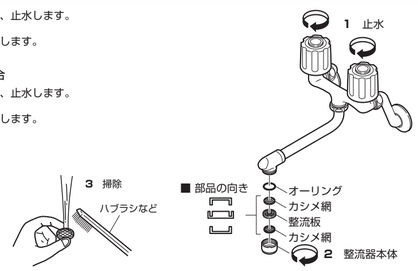
定期的に、配管周りの水漏れや、ガタツキがないか確認してください。
劣化・摩耗などで部品が破損し、やけど・けがをしたり、水漏れして家財などを濡らす財産損害発生のおそれがあります。

お手入れ　吐水口の掃除

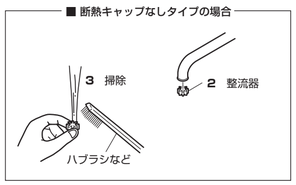
近所で水道工事があったり、長期間使用し湯水の出が悪くなった時にお調べください。

1 湯側・水側ハンドルをまわし、止水します。
2 整流器本体をはずします。
3 ハブラシなどで網部分を掃除します。

■ 断熱キャップなしタイプの場合
1 湯側・水側ハンドルをまわし、止水します。
2 整流器をはずします。
3 ハブラシなどで整流器を掃除します。



■ 断熱キャップなしタイプの場合



再使用時
整流器本体が確実に閉まっているか確認してから、通水してください。
■ 断熱キャップなしタイプの場合
整流器が確実に取付けているか確認してから、通水してください。

こんなときは　故障？　その前に

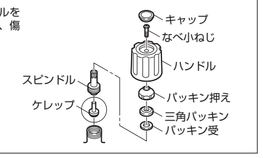
修理をご依頼される前に、次の表に従って点検してください。

現象	点検項目	処置
流量が少ない	ゴミづまりはありませんか。	吐水口の掃除をする。 参照：吐水口の掃除
低温しかでない	給湯機から湯がきていますか。	給湯機の設定温度・作動を確認する。 参照：給湯温度の設定
温度調節がうまくできない	ゴミづまりはありませんか。	吐水口の掃除をする。 参照：吐水口の掃除
	給湯機から湯がきていますか。	給湯機の設定温度・作動を確認する。 参照：給湯温度の設定

以上の点検を実施されても、不具合がなくならない場合はお手数ですがお買上げの販売店（工事店）に修理をご依頼ください。

●修理される方は次の表に従って点検してください。

現象	点検項目
ハンドル部から水が漏れる	器具への給水・給湯を止め、湯側・水側ハンドルを分解し、レクレップ部のゴミかみがあれば取除き、傷があれば部品を交換してください。 ●寒冷地用は固定コマを使用しています。



漏水した場合の処置

漏水した場合は、配管中の元栓を閉めてください。

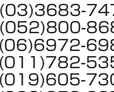
元栓の閉め方

元栓ボックス（メーターボックス）のふたを開け、元栓を右にまわして閉めます。
※元栓を閉める前に給湯機や洗濯機などの使用は止めてください。
※閉栓後は近くの水栓などで給水が止まっていることを確認してください。
※一部の地域では左まわしの場合があります。
※元栓がどこにあるかわからない場合は、水道局にお問い合わせください。

■ 戸建て住宅などの元栓ボックス：
主に玄関やガレージ付近の地面にあります。
古い戸建て住宅の場合は道路に円形のキー式ボックスがあったりします。

●キー式

●ハンドル式



■ マンションなどの中高層住宅の元栓ボックス：
主に玄関を出た階段の踊り場に鉄の扉があり、電気やガスのメーターと共に水道メーターと元栓があります。
お隣と共通のボックス内で元栓の場所がわからない場合は、水道料金の検針票などでご自分の水道メーター番号を確認してください。

アフターサービス

〔補修用性能部品の供給期間〕

この製品の補修用性能部品（機能維持のために必要な部品であり、使用期間中に取替える可能性が高いもの）の供給期間は製造中止後10年です。

〔修理の依頼と部品交換の依頼について〕

●修理依頼と部品交換依頼先：お求めの販売店（工事店）又は当社
●連絡していただきたい内容：■住所、氏名、電話番号
■品番、品名
■お買上げ（お取付け）年月日
■故障内容、異常の状況（水漏れ箇所の説明など）、部品交換の依頼
■訪問希望日
●当社の修理および部品交換料金は「技術料」＋「部品代」＋「出張料」で構成されています。
「技術料」……診断・故障箇所の修理および部品交換・調整・修理完了時の点検などの作業にかかる費用。
「部品代」……修理および部品交換に使用した部品代。（無料修理で交換した古い部品・製品は当社の所有になります。）
「出張料」……製品のある場所へ技術者を派遣する場合の費用。

〔部品の交換〕

●止水部やパッキンが摩耗・劣化すると水漏れの原因となります。この場合、該当部品の交換が必要です。

〔部品のご購入や修理の依頼、ご相談は〕

●まずは、お求めの販売店（工事店）へご相談ください。ご不明な場合は最寄りの当社営業所へお問合せください。

SANEI
株式会社 三栄水栓製作所
本社
〒537-0023　大阪市東成区玉津1丁目12番29号
TEL (06)6972-5921　FAX (06)6974-7001

東京支店 …… ☎ (03)3683-7471
名古屋支店 …… ☎ (052)800-8688
大阪支店 …… ☎ (06)6972-6981
札幌営業所 …… ☎ (011)782-5353
盛岡営業所 …… ☎ (019)605-7301
仙台営業所 …… ☎ (022)258-6251
新潟営業所 …… ☎ (025)281-1291
さいたま営業所 …… ☎ (048)625-4741
横浜営業所 …… ☎ (045)929-0331
金沢営業所 …… ☎ (076)268-7751
京都営業所 …… ☎ (075)605-5761
神戸営業所 …… ☎ (078)843-9231
広島営業所 …… ☎ (082)922-3631
四国営業所 …… ☎ (089)982-5071
福岡営業所 …… ☎ (092)674-1230
熊本営業所 …… ☎ (096)385-7161
沖縄営業所 …… ☎ (098)869-0890

ホームページ http://www.san-ei-web.co.jp